

第 49 回 荒川区政世論調査

＜概要版＞

荒川区では、区民の皆様のご意見やご要望を区政に反映するため、毎年、区政世論調査を実施しています。この調査によって得られた結果は、適切に把握・分析した上で、すべての区民の皆様に幸福を実感していただける、よりよい区政運営のための基礎資料として活用してまいります。併せて多くの皆様に参考にしていただければ幸いです。

調査の実施に当たり、ご協力くださいました区民並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

荒川区区政広報部秘書課

◆調査の概要

✧ 調査対象	区内在住の満 18 歳以上の個人	✧ 配布方法	郵送配布
✧ 対象者数	3,000 人	✧ 回収方法	郵送またはインターネットによる回収
✧ 抽出方法	層化 2 段階無作為抽出		
✧ 調査期間	令和 6 年 8 月 30 日～9 月 30 日	✧ 有効回収数（率）	1,414 件（47.1%）

◆調査内容と主な調査結果

【居住と生活環境】住み続けたいと回答した方は 9 割である。

【地域とのつながり・暮らし】地域の行事や活動に参加している方は 3 割強である。そのうち、どのようなものに参加しているか聞いたところ、「お祭りなどの地域の催し」が 7 割強で最も高く、次いで「町会・自治会の活動」が 4 割半ば近くとなっている。

【防災対策】災害時に備えた食料や飲料の備蓄について、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」と回答した方は 6 割半ば近くで最も高く、次いで「備蓄用として販売されている長期保存用食料等を備蓄している」が 3 割半ば近くとなっている。

【読書習慣・図書館の利用】本・雑誌の 1 か月平均読書冊数は、「1～3 冊」が 4 割半ば近くで最も高く、次いで「0 冊」が 4 割弱となっている。

【選挙】期日前投票について「知っている」（88.4%）と「多少知っている」（5.0%）と「名前は知っている」（2.2%）まで合わせた《知っている》（95.6%）は 9 割半ばとなっている。

【男女共同参画】男女の地位が平等か聞いたところ、「平等になっている」では「学校」（61.6%）が 6 割強と最も高い。《男性優遇》では「政治の場」（81.6%）が 8 割強で最も高く、次いで「しきたりや慣習」（73.2%）、「社会全体」（67.6%）と続いている。一方、《女性優遇》では「余暇活動」（16.4%）が 1 割半ばを超えて最も高く、次いで「家庭」（14.5%）、「法律や制度」（11.4%）と続いている。

【区政への関心と要望】区政への関心度は、関心があると回答した方が 6 割弱である。

◆概要版の見方

- ☆ 図中の「n」は、その設問の回答者数を表しています。
- ☆ 小数点第2位を四捨五入したため、回答率を合計しても100%にならないものもあります。
- ☆ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数としたため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- ☆ 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によって語句を簡略化してあります。
- ☆ ライフステージは、以下の定義に従って区分しています。
 - ・ 家族形成期 : 「39歳以下で同居している子どものいない夫婦」または「同居している一番上の子どもが小学校入学前」
 - ・ 家族成長前期 : 「同居している一番上の子どもが小・中学生」
 - ・ 家族成長後期 : 「同居している一番上の子どもが高校・大学生」
 - ・ 家族成熟期 : 「64歳以下で同居している一番上の子どもが学校卒業」
 - ・ 高齢期 : 「65歳以上で同居している一番上の子どもが学校卒業」または「65歳以上で同居している子どもはいない」
 - ・ 高齢期(一人暮らし) : 「65歳以上で一人暮らし」
 - ・ 一人暮らし : 「64歳以下で一人暮らし」

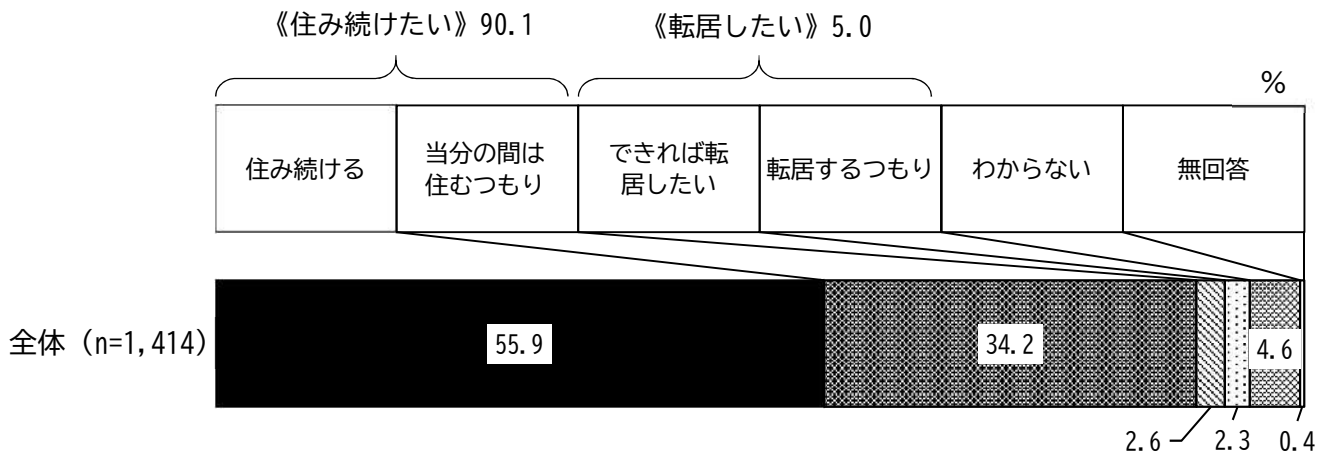
この概要版は、荒川区政世論調査報告書を抜粋し、まとめたものです。報告書全文は、区役所地下1階の情報提供コーナーや各区立図書館、荒川区ホームページでご覧いただけます。

(荒川区ホームページアドレス <https://www.city.arakawa.tokyo.jp>)

1. 居住と生活環境 【継続調査項目】

設問：これからも荒川区にお住まいになりますか。（回答は1つ）

「住み続けるつもり」（55.9%）と「当分の間は住むつもり」（34.2%）を合わせた《住み続けたい》（90.1%）の割合が9割であり、高い割合を示している。



※令和元年度調査

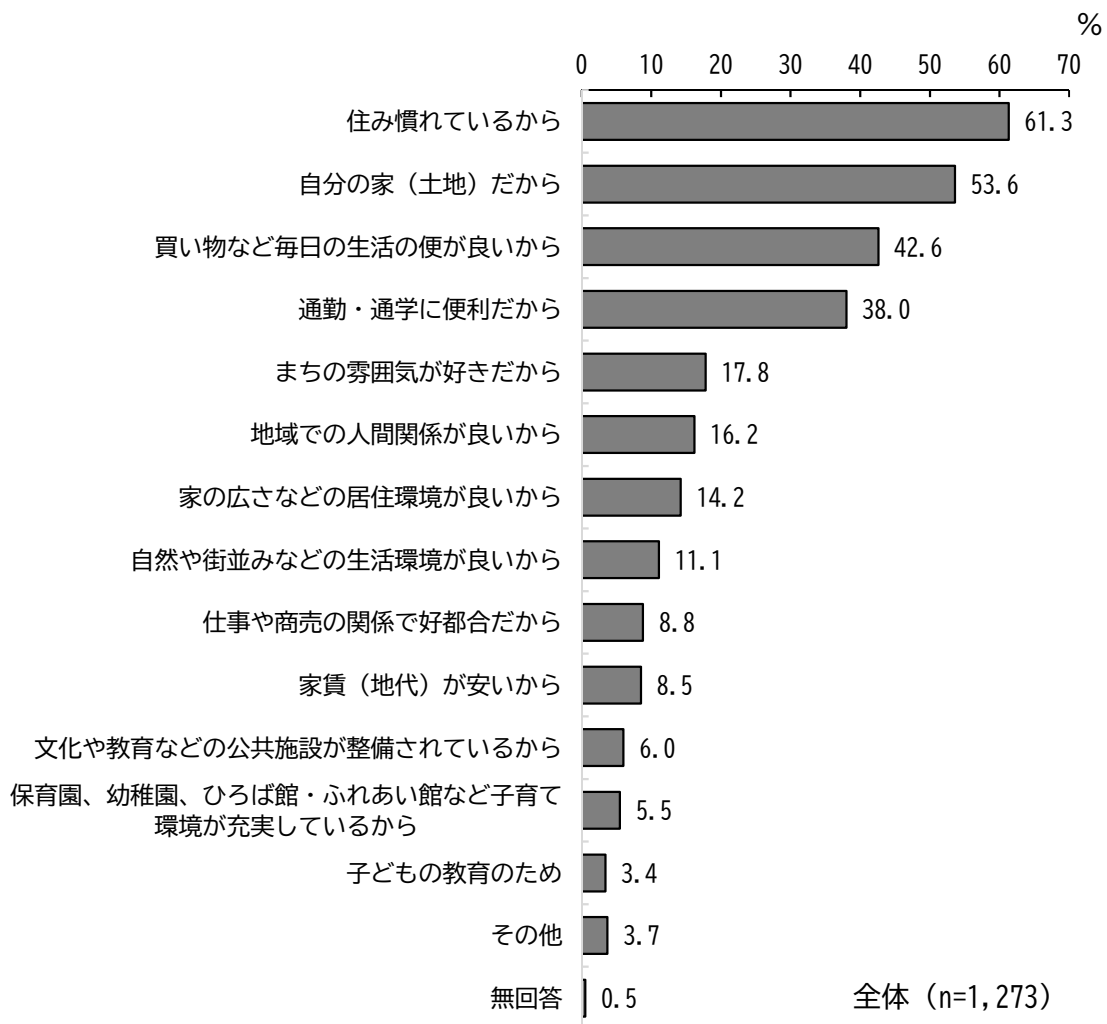
《住み続けたい》	住み続けるつもり	61.1	88.7
	当分の間は住むつもり	27.6	
《転居したい》	できれば転居したい	2.7	5.2
	転居するつもり	2.5	

※平成 26 年度調査

《住み続けたい》	住み続けるつもり	58.4	88.0
	当分の間は住むつもり	29.6	
《転居したい》	できれば転居したい	2.1	4.7
	転居するつもり	2.6	

設問：《住み続けたいとお答えの方に》その主な理由は何ですか。（回答はいくつでも）

「住み慣れているから」（61.3％）が6割強と最も高く、次いで「自分の家（土地）だから」（53.6％）、「買い物など毎日の生活の便が良いから」（42.6％）、「通勤・通学に便利だから」（38.0％）が比較的高くなっている。



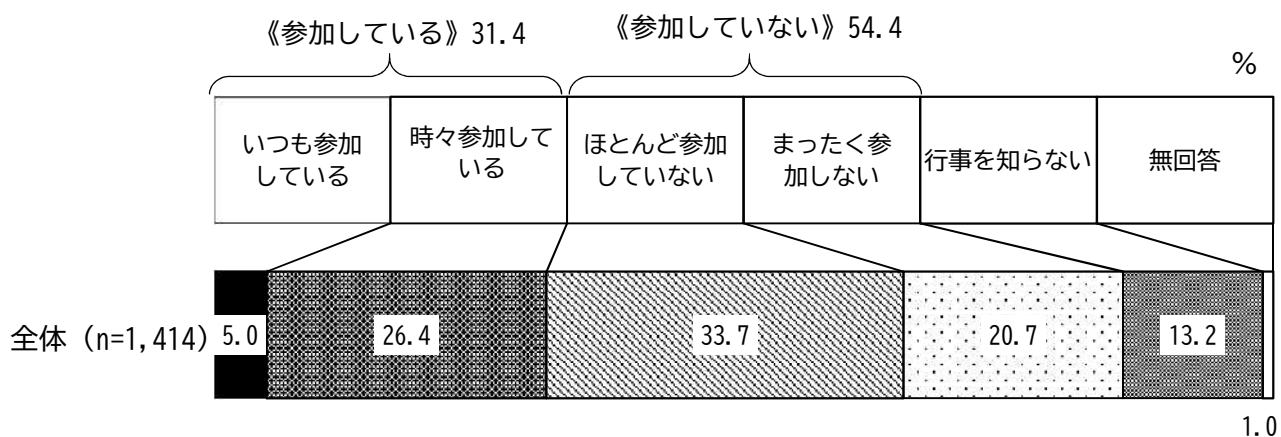
※昨年度調査（上位5項目）

住み慣れているから	64.0
自分の家（土地）だから	58.1
買い物など毎日の生活の便が良いから	46.5
通勤・通学に便利だから	38.5
家の広さなどの居住環境が良いから	18.5

2. 地域とのつながり・暮らし 【継続調査項目】

設問：あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。（回答はひとつ）

「いつも参加している」（5.0%）と「時々参加している」（26.4%）を合わせた《参加している》（31.4%）は3割強となっている。一方、「ほとんど参加していない」（33.7%）と「まったく参加しない」（20.7%）をあわせた、《参加していない》（54.4%）は5割半ば近くとなっている。

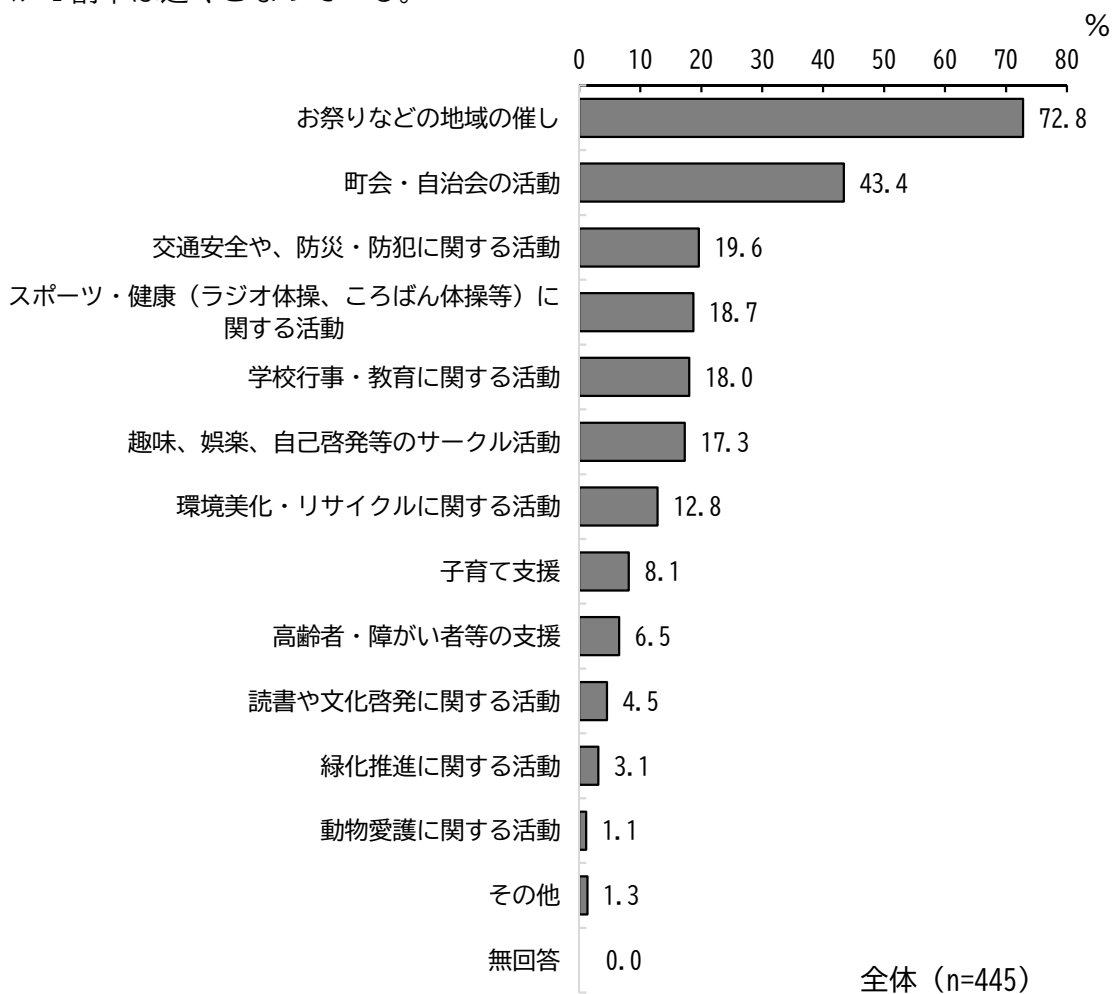


※昨年度調査

《参加している》	いつも参加している	4.8	33.1
	時々参加している	28.3	
《参加していない》	ほとんど参加していない	35.0	54.4
	まったく参加しない	19.4	

設問：《参加しているとお答えの方に》次のうち、どのようなものに参加していますか。（回答は
いくつでも）

「お祭りなどの地域の催し」（72.8%）が7割強で最も高く、次いで「町会・自治会の活動」（43.4%）が4割半ば近くとなっている。

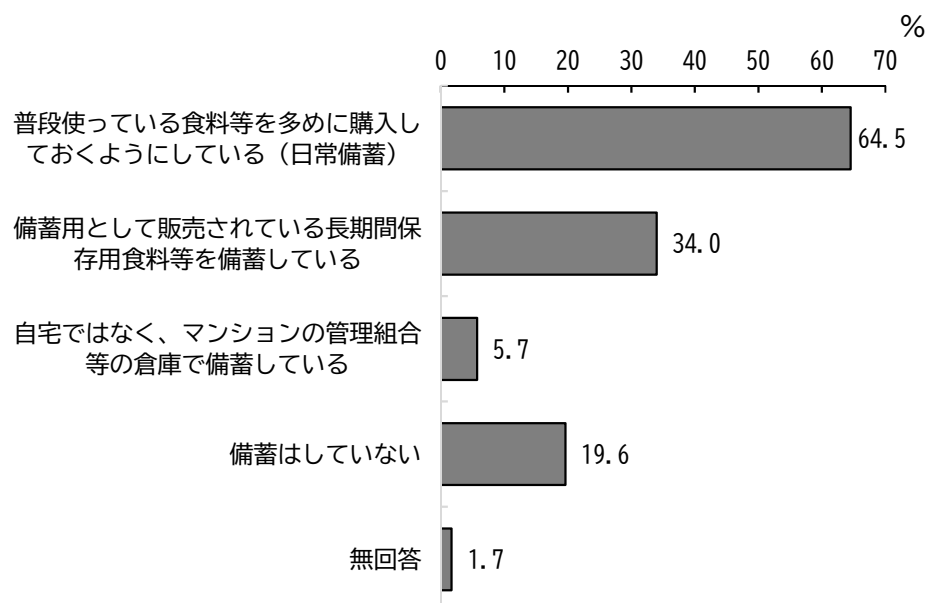


3. 防災対策 【各部依頼調査項目】

設問：災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について、どのような取組をしていますか。

（回答は「備蓄はしていない」以外はいくつでも）

「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」（64.5%）が6割半ば近くで最も高く、次いで「備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している」（34.0%）が3割半ば近くである。

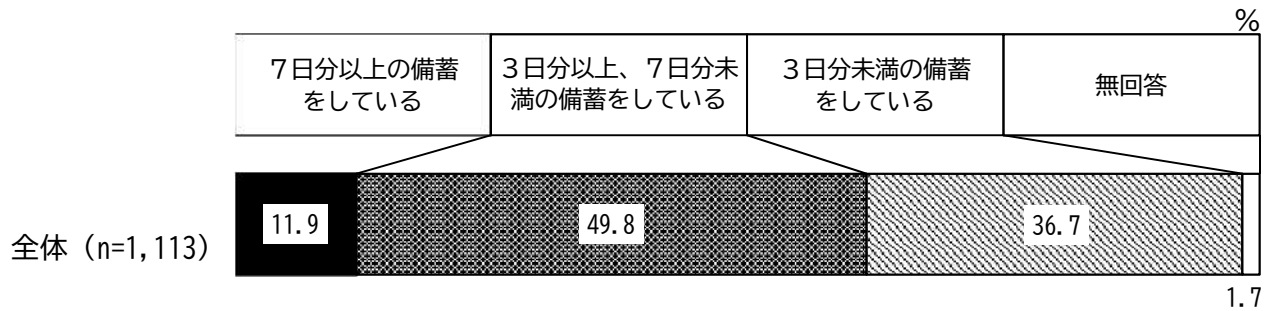


※昨年度調査

普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）	60.5
備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している	37.0
自宅ではなく、マンションの管理組合等の倉庫で備蓄している	5.8
備蓄はしていない	19.8

設問：《備蓄をしているとお答えの方に》何日分の備蓄をしていますか。（回答は1つ）

「3日以上、7日未満の備蓄をしている」（49.8%）が5割弱で最も高く、次いで「3日未満の備蓄をしている」（36.7%）、「7日分の備蓄をしている」（11.9%）と続いている。

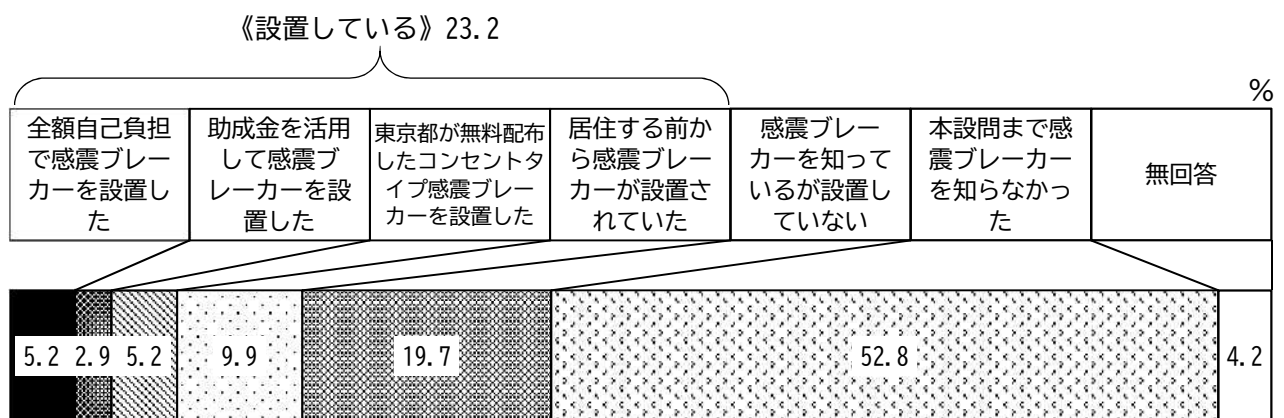


※昨年度調査

7日分の備蓄をしている	11.9
3日以上、7日未満の備蓄をしている	47.2
3日未満の備蓄をしている	40.0

設問：地震発生時の通電火災を防ぐために、強い揺れを感知した時に電気を自動的に止める「感震ブレーカー」の設置状況についてお答えください。（回答は1つ）

「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」（5.2%）と「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」（2.9%）と「東京都が無料配布したコンセントタイプ感震ブレーカーを設置した」（5.2%）と「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」（9.9%）を合わせた《設置している》(23.2%)は2割半ば近くとなったが、「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」(52.8%)が5割強となっている。



全体（n=1,414）

※昨年度調査

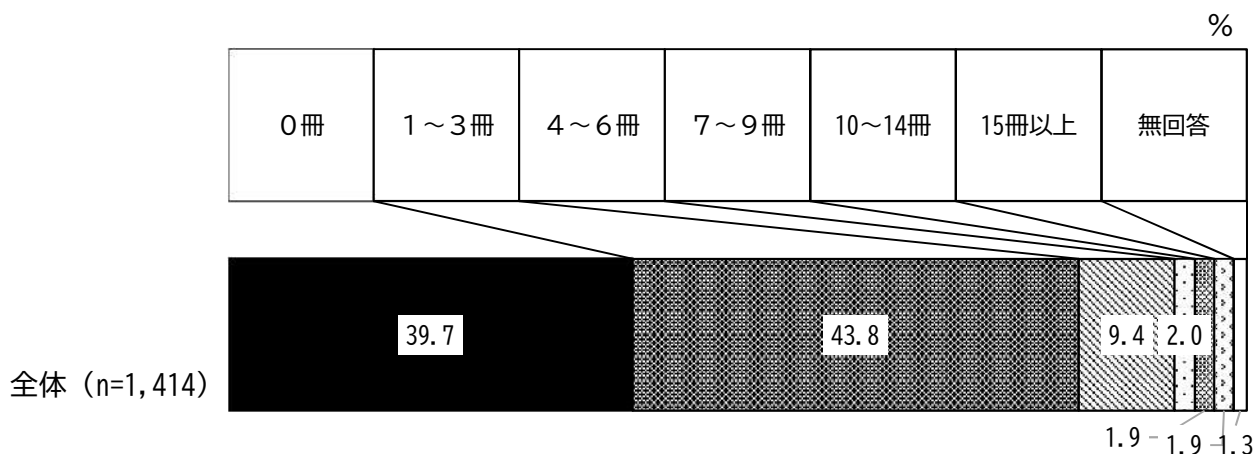
《設置している》	全額自己費用で設置した	5.1	21.8
	助成金を活用して設置した	4.4	
	居住する前から設置されていた	12.3	
知っているが設置していない		20.0	
知らない		54.8	

4. 読書習慣・図書館の利用 【各部依頼調査項目】

設問：あなたは、本・雑誌（漫画は含まない）を1か月平均何冊くらい読みますか。

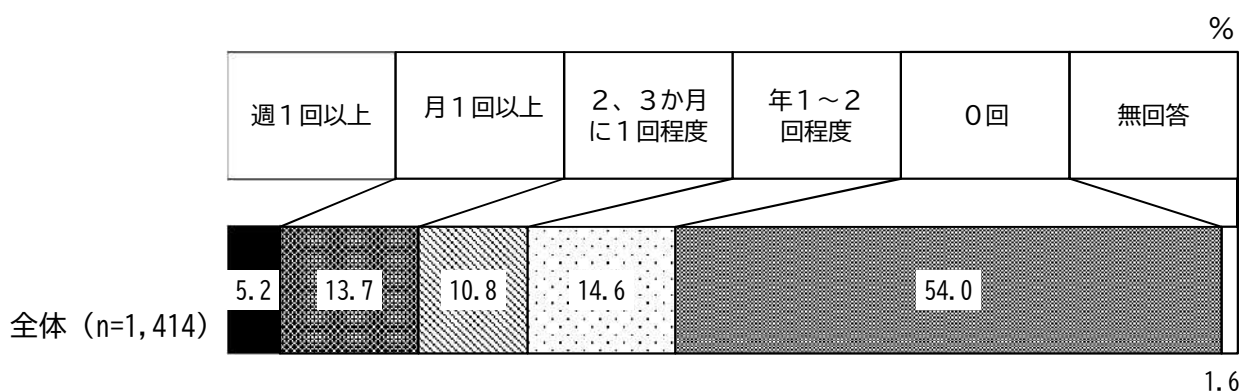
（回答は1つ）

「1～3冊」（43.8%）が4割半ば近くで最も高く、次いで「0冊」（39.7%）が4割弱となっている。



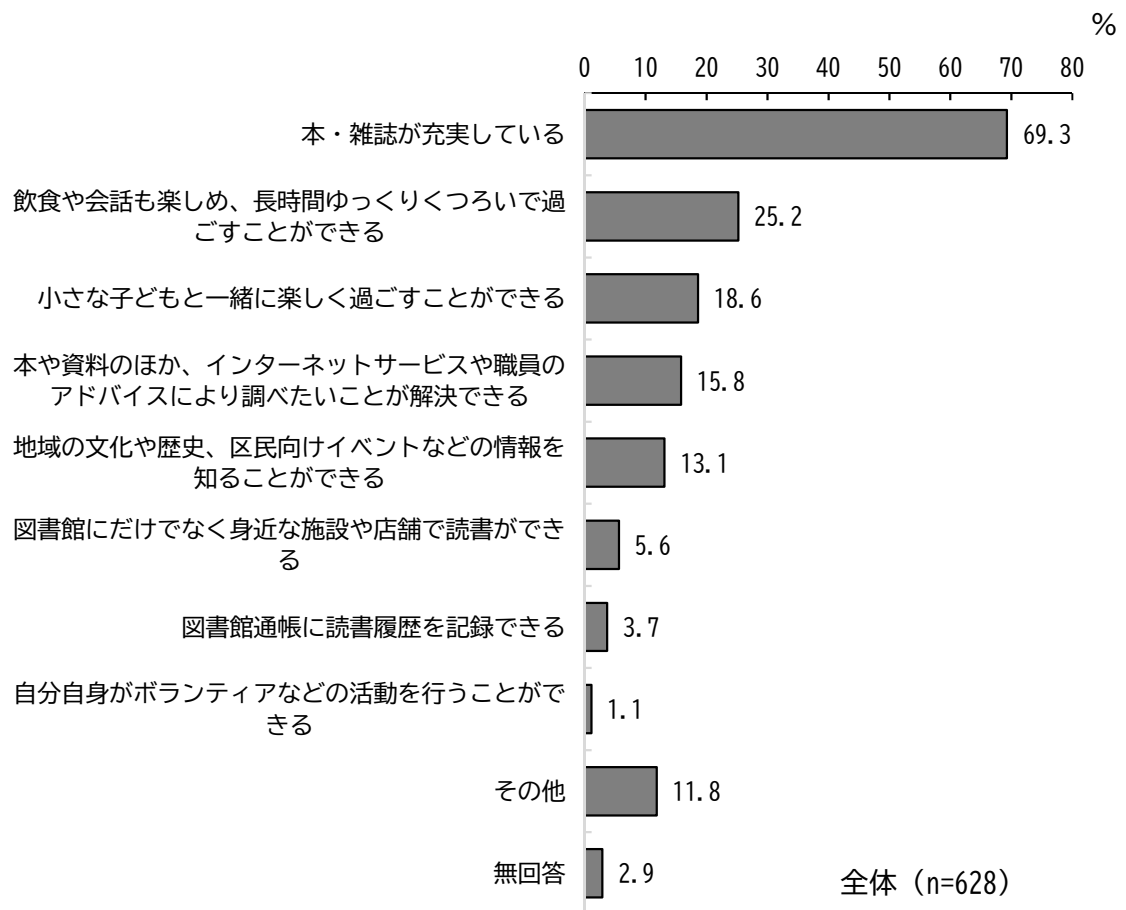
設問：過去1年以内に区立図書館を利用した頻度はどのくらいですか。（回答は1つ）

利用した方については、「年1～2回程度」（14.6%）と「月1回以上」（13.7%）が1割半ば近くであり、次いで、「2、3か月に1回程度」（10.8%）、「週1回以上」（5.2%）と続いている。



設問：《過去1年以内に図書館を利用しているとお答えの方に》あなたが区立図書館に行って良かったことは何ですか。（回答は3つまで）

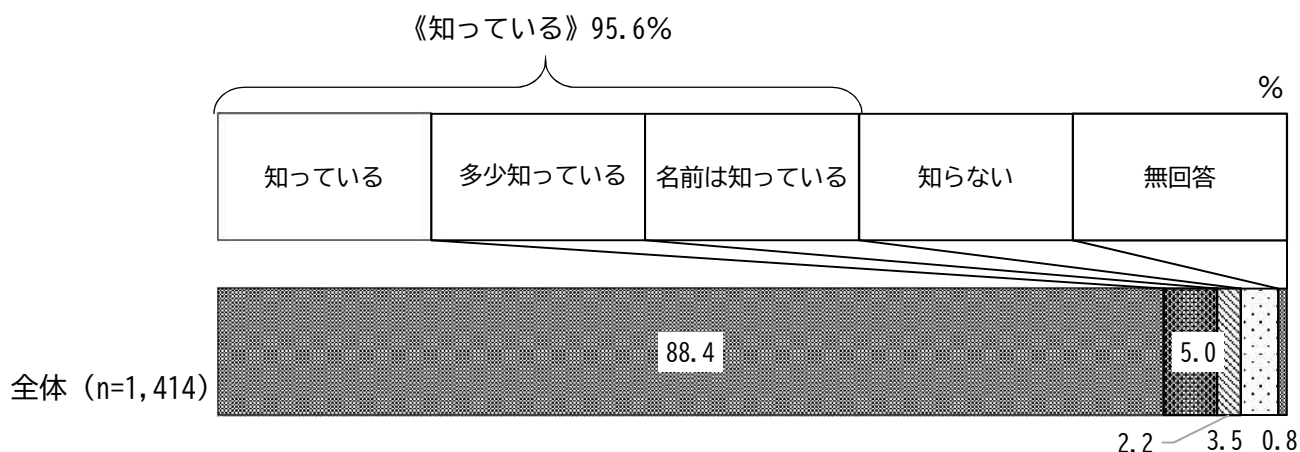
「本・雑誌が充実している」（69.3%）が7割弱で最も高くなっている。次いで、「飲食や会話も楽しめ、長時間ゆっくりくつろいで過ごすことができる」（25.2%）、「小さな子どもと一緒に楽しく過ごすことができる」（18.6%）と続いている。



5. 選挙 【各部依頼調査項目】

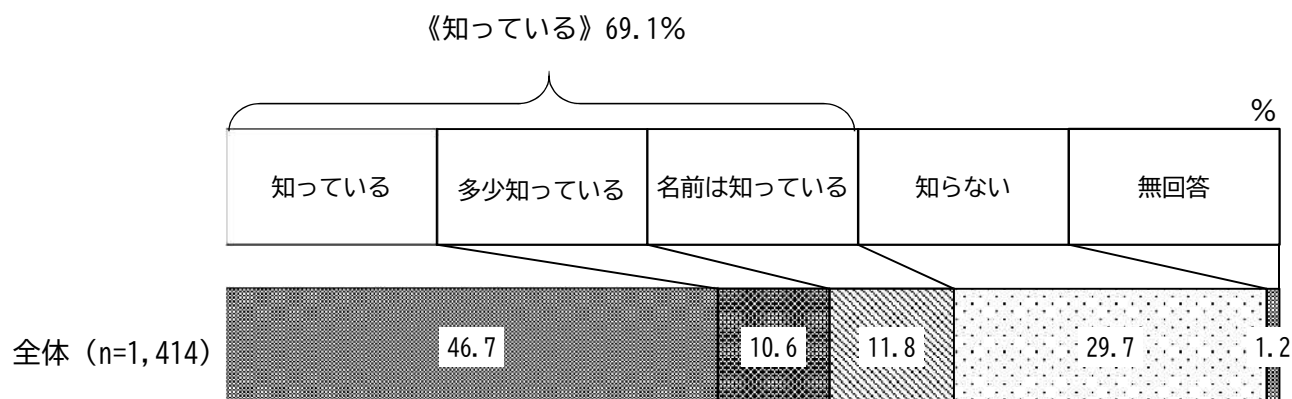
設問：あなたは、投票日当日に仕事や旅行などで投票所へ行けない方のための「期日前投票制度」の内容を知っていますか。（回答は1つ）

「知っている」（88.4%）が9割近くで最も高く、「多少知っている」（5.0%）と「名前は知っている」（2.2%）まで合わせた《知っている》（95.6%）は9割半ばとなっている。



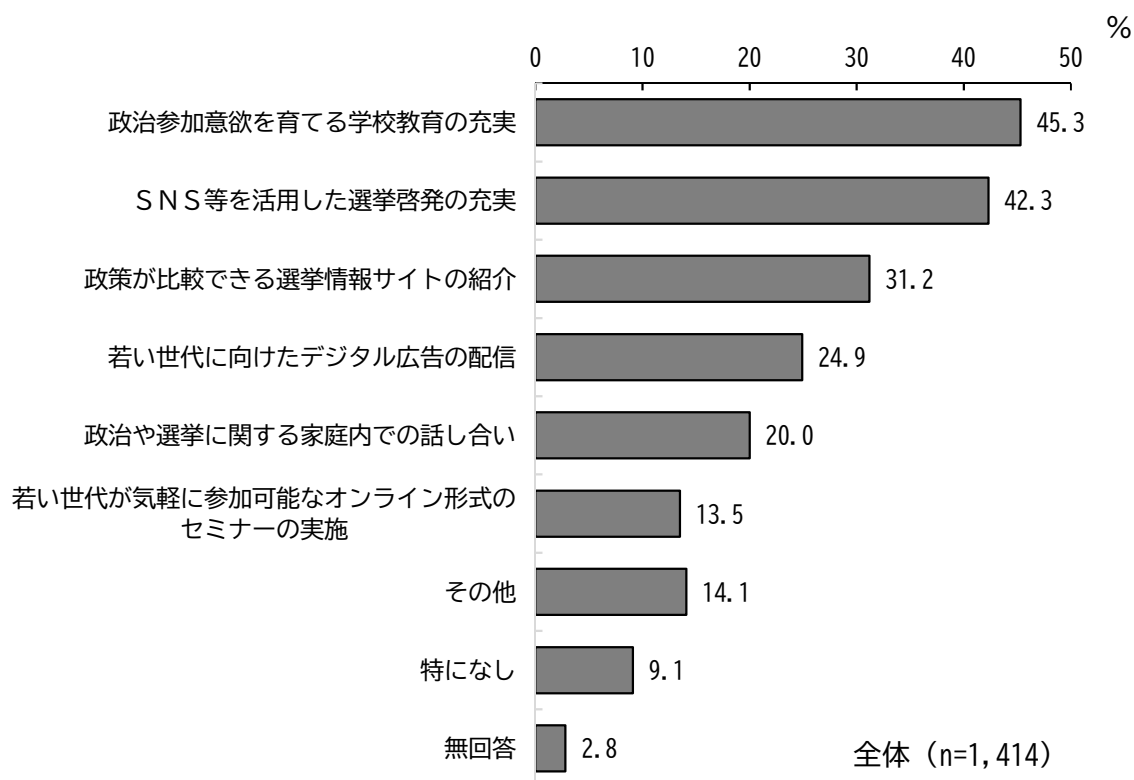
設問：あなたは、旅行先や出張先などの荒川区外の滞在先や病院・老人ホームなどに入院・入所している場合でも投票することができる「不在者投票制度」の内容を知っていますか。（回答は1つ）

「知っている」（46.7%）が4割半ばを超えて最も高く、「多少知っている」（10.6%）と「名前は知っている」（11.8%）まで合わせた《知っている》（69.1%）は7割弱となっている。一方、「知らない」（29.7%）は3割弱となっている。



設問：各種選挙の全体の投票率からみると、若い世代（ここでは18歳以上29歳以下の有権者）の投票率は低いと言われていますが、今後、若い世代の政治や選挙に関する意識を高めるためにはどのようにしたらよいと思いますか。（回答はいくつでも）

「政治意欲を育てる学校教育の充実」（45.3%）が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「SNS等を活用した選挙啓発の充実」（42.3%）、「政策が比較できる選挙情報サイトの紹介」（31.2%）と続いている。



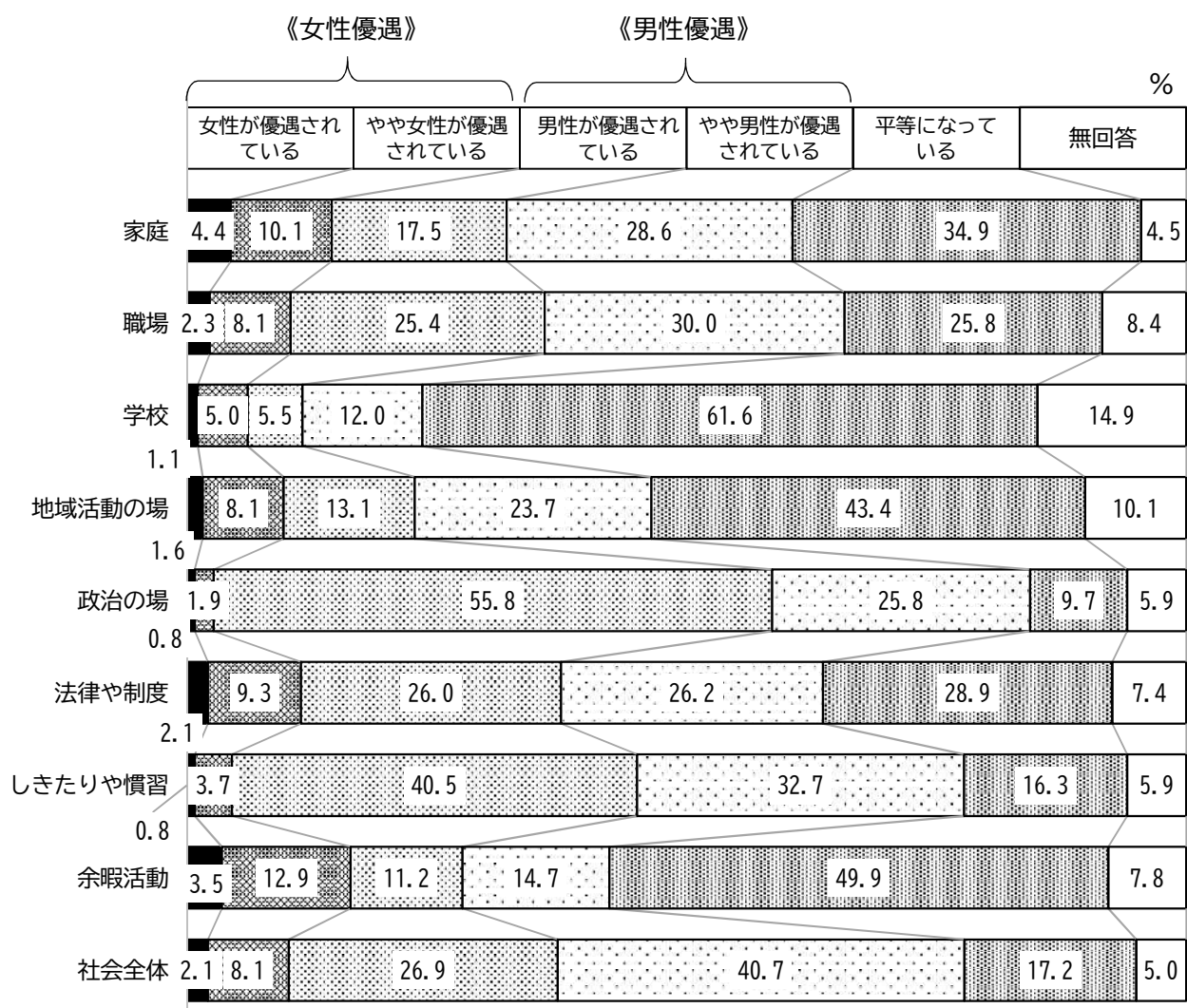
6. 男女共同参画 【各部依頼調査項目】

設問：次の分野で、男女の地位は平等だと思いますか。（回答はそれぞれ一つ）

「平等になっている」では「学校」（61.6％）が6割強と最も高くなっている。

《男性優遇》では「政治の場」（81.6％）が8割強で最も高く、次いで「しきたりや慣習」（73.2％）、「社会全体」（67.6％）と続いている。

一方、《女性優遇》では「余暇活動」（16.4％）が1割半ばを超えて最も高く、次いで「家庭」（14.5％）、「法律や制度」（11.4％）と続いている。

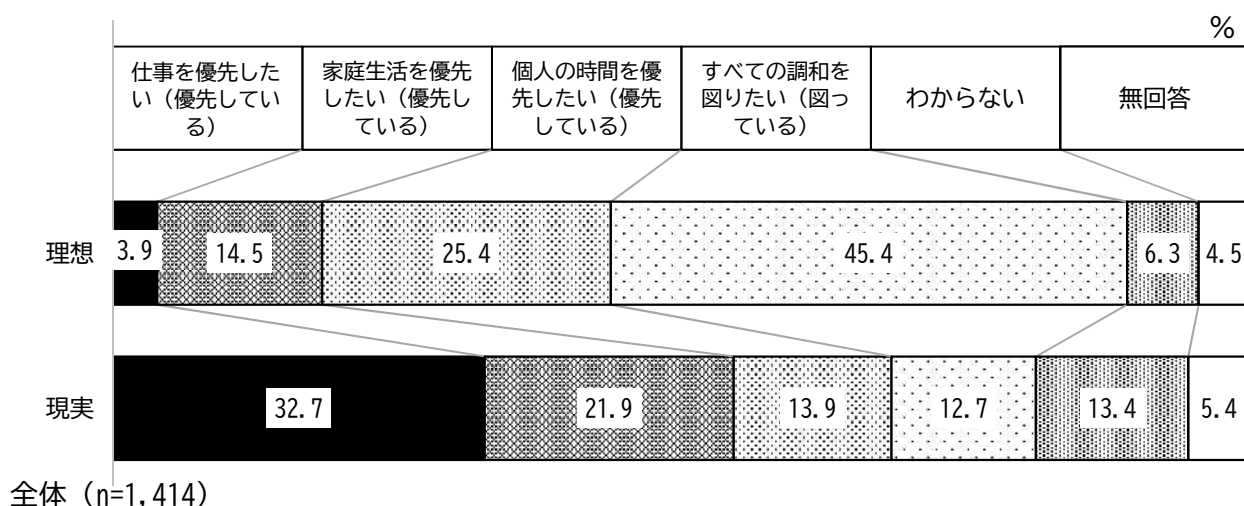


全体（n=1,414）

設問：あなたにとって、仕事、家庭生活（家事、育児、介護など）、個人の時間（趣味、地域活動など）の理想と現実はどのようになっていますか。（回答はそれぞれ一つ）

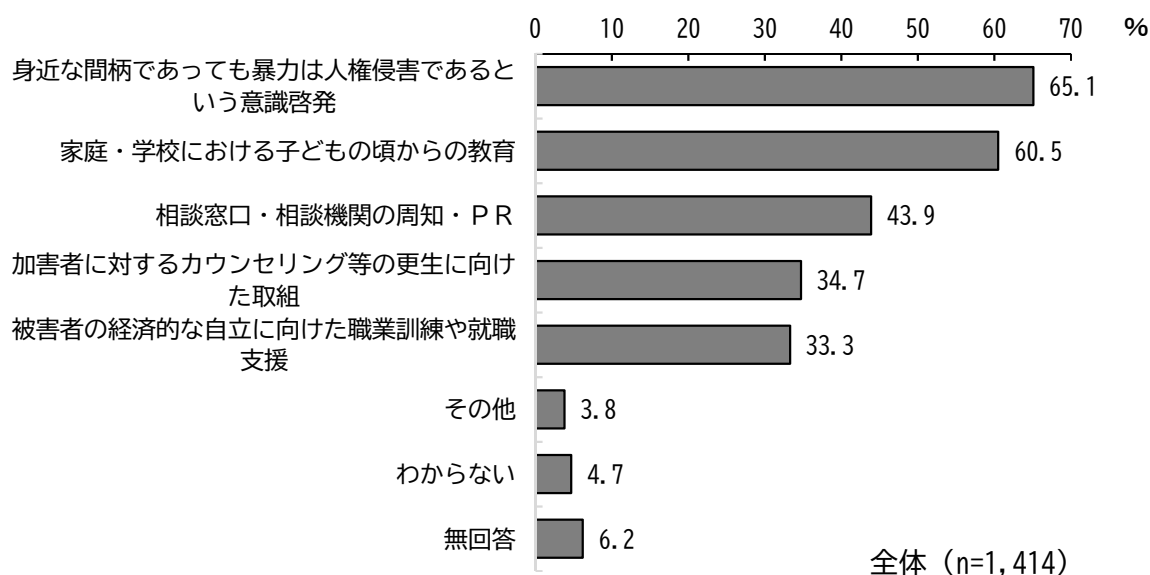
生活の中での優先度について聞いたところ、理想は、「すべての調和を図りたい」（45.4％）が4割半ばで最も高く、次いで「個人の時間を優先したい」（25.4％）、「家庭生活を優先したい」（14.5％）と続いている。

一方、現実には、「仕事を優先している」（32.7％）が3割強で最も高く、次いで「家庭生活を優先している」（21.9％）、「個人の時間を優先している」（13.9％）と続いている。



設問：あなたは、配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のためにどのような取組を充実すべきだと思いますか。（回答はいくつでも）

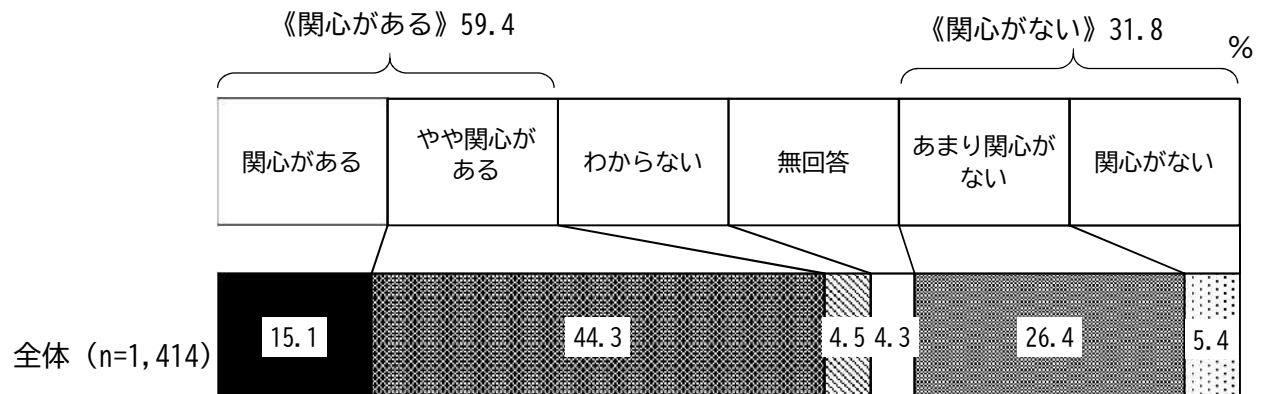
「身近な間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識啓発」（65.1％）が6割半ばで最も高くなっている。次いで、「家庭・学校における子どもの頃からの教育」（60.5％）、「相談窓口・相談機関の周知・PR」（43.9％）と続いている。



7. 区政への関心と要望 【継続調査項目】

設問：あなたは、区政にどの程度関心がありますか。（回答は1つ）

「関心がある」（15.1%）と「やや関心がある」（44.3%）を合わせた《関心がある》（59.4%）は6割弱、一方、「あまり関心がない」（26.4%）と「関心がない」（5.4%）を合わせた《関心がない》（31.8%）は3割強、《関心がある》との差は27.6ポイントとなっている。



※令和元年度調査

《関心がある》	関心がある	16.6	54.8
	やや関心がある	38.2	
《関心がない》	あまり関心がない	27.2	34.5
	関心がない	7.3	

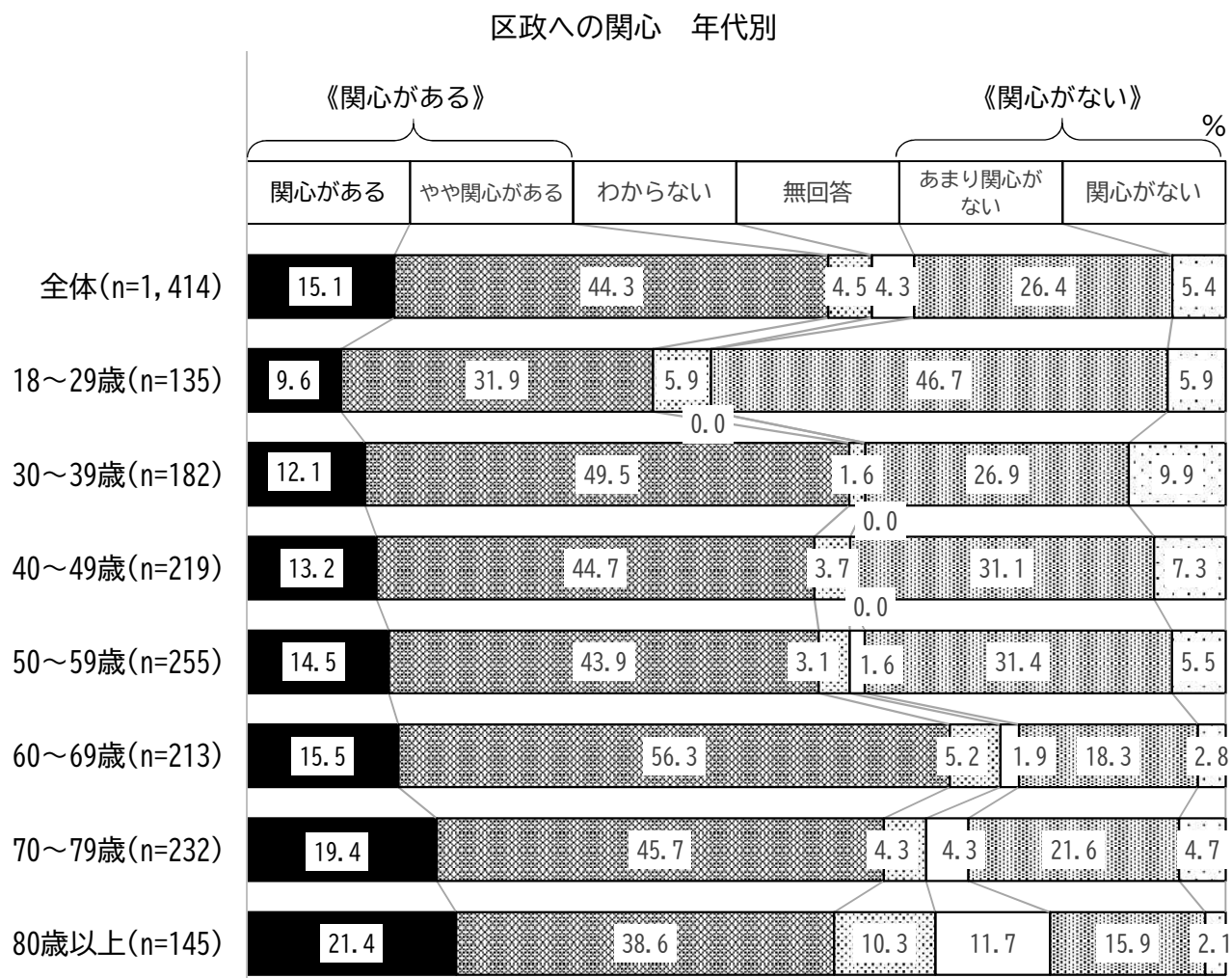
※20.3ポイント差

※平成26年度調査

《関心がある》	関心がある	15.5	54.1
	やや関心がある	38.6	
《関心がない》	あまり関心がない	29.1	35.3
	関心がない	6.2	

※18.8ポイント差

年代別でみると、《関心がある》は60～69歳（71.8%）が7割強と最も高く、次いで70～79歳（65.1%）が6割半ばで高くなっている。一方、《関心がない》は18～29歳（52.6%）が5割強と最も高く、30～59歳が3割台と、60歳以上に比べ高くなっている。



設問：区が行っている事業のうち、「今後、特に力を入れてほしいと思うもの」を5つ選んでください。

【経年比較】

経年比較すると、「地震・水害などの防災対策」は、令和元年度を除き、第1位となっており、令和3年度（64.0％）に次いで高くなっている。「地域防犯の取組」は令和2年度以降第2位となっている。

単位：％

年度	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
令和6年	地震・水害などの防災対策	62.4	地域防犯の取組	33.9	子どもの安全対策／高齢者福祉の充実		25.2	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	18.1	幼児・児童の子育て支援の充実	17.3	道路・交通網の整備	17.0	
令和5年	地震・水害などの防災対策	59.9	地域防犯の取組	36.4	子どもの安全対策	31.1	高齢者福祉の充実	25.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実／幼児・児童の子育て支援の充実		19.7	道路・交通網の整備	18.9	
令和4年	地震・水害などの防災対策	58.8	地域防犯の取組	31.0	高齢者福祉の充実	26.8	子どもの安全対策	23.0	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.7	公園の整備充実・緑化の推進	18.3	幼児・児童の子育て支援の充実	15.3
令和3年	地震・水害などの防災対策	64.0	地域防犯の取組	32.8	子どもの安全対策	29.2	高齢者福祉の充実	27.1	幼児・児童の子育て支援の充実	18.1	感染症対策の充実	17.4	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	17.0
令和2年	地震・水害などの防災対策	58.2	地域防犯の取組	31.2	感染症対策の充実	25.3	子どもの安全対策	24.7	高齢者福祉の充実	24.3	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.7	幼児・児童の子育て支援の充実	17.7
令和元年	高齢者福祉の充実	35.8	地震などの防災対策	34.7	幼児・児童の子育て支援の充実	23.9	子どもの安全対策	19.2	地域防犯の取組	19.0	学校教育の充実	18.1	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	17.3
平成30年	地震などの防災対策	37.6	高齢者福祉の充実	25.8	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	24.3	地域防犯の取組	23.9	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	23.3	幼児・児童の子育て支援の充実	21.6	道路・交通網の整備	19.5
平成29年	地震などの防災対策	31.0	高齢者福祉の充実	28.4	幼児・児童の子育て支援の充実	24.1	道路・交通網の整備	20.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	20.5	地域防犯の取組	20.1	公園の整備充実・緑化の推進／魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	19.3
平成28年	地震などの防災対策	37.0	高齢者福祉の充実	31.7	幼児・児童の子育て支援の充実	24.9	地域防犯の取組	22.2	子どもの安全対策	20.4	公園の整備充実・緑化の推進	19.6	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.0
平成27年	地震などの防災対策	31.8	高齢者福祉の充実	31.4	幼児・児童の子育て支援の充実	23.5	子どもの安全対策	21.9	地域防犯の取組	21.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.4	学校教育の充実	18.4

ライフステージ別にみると、「地震・水害などの防災対策」（全体１位）は家族形成期以外の全てのライフステージで第１位に挙げられている。「子どもの安全対策」（全体３位）は家族形成期で第１位、家族成長前期で第２位に挙げられ、「幼児・児童の子育て支援の充実」（全体６位）は家族形成期で第２位、家族成長前期で第４位に挙げられている。また、家族成長前期は全体１１位の「学校教育の充実」が第３位に挙げられている。

今後、区に力を入れてほしい事業（上位７位） ライフステージ別

単位：％

区分	第１位		第２位		第３位		第４位		第５位		第６位		第７位	
全体	地震・水害などの防災対策	62.4	地域防犯の取組	33.9	子どもの安全対策／高齢者福祉の充実			25.2	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	18.1	幼児・児童の子育て支援の充実	17.3	道路・交通網の整備	17.0
家族形成期	子どもの安全対策	56.7	幼児・児童の子育て支援の充実	53.3	地震・水害などの防災対策	51.3	地域防犯の取組	30.7	学校教育の充実	26.7	公園の整備充実・緑化の推進	24.0	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	17.3
家族成長前期	地震・水害などの防災対策	56.5	子どもの安全対策	53.9	学校教育の充実	41.7	幼児・児童の子育て支援の充実	33.9	地域防犯の取組	29.6	道路・交通網の整備	20.9	公園の整備充実・緑化の推進	16.5
家族成長後期	地震・水害などの防災対策	54.9	地域防犯の取組	38.9	子どもの安全対策	23.9	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実／道路・交通網の整備			23.0	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	17.7	幼児・児童の子育て支援の充実／学校教育の充実	16.8
家族成熟期	地震・水害などの防災対策	82.2	地域防犯の取組	40.0	子どもの安全対策／高齢者福祉の充実			23.3	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進／道路・交通網の整備			17.8	幼児・児童の子育て支援の充実	14.4
高齢期	地震・水害などの防災対策	68.9	高齢者福祉の充実	41.9	地域防犯の取組	36.1	子どもの安全対策／バリアフリー化の推進			21.2	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	17.8	道路・交通網の整備	16.2
高齢期（一人暮らし）	地震・水害などの防災対策	58.6	高齢者福祉の充実	43.0	地域防犯の取組	35.2	バリアフリー化の推進	21.9	低所得者に対する福祉の充実	21.1	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	15.6	子どもの安全対策	14.8
一人暮らし	地震・水害などの防災対策	64.2	地域防犯の取組	34.6	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	29.6	子どもの安全対策	17.9	道路・交通網の整備	16.0	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	15.4	低所得者に対する福祉の充実	14.2
その他	地震・水害などの防災対策	62.7	地域防犯の取組	31.6	高齢者福祉の充実	29.9	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	16.9	道路・交通網の整備	16.4	バリアフリー化の推進	15.9	子どもの安全対策	14.9

第 49 回 荒川区政世論調査
＜概要版＞

—— 令和 6 年度 ——

令和 7 年 1 月発行

登 録 (06) 0083
発 行 荒川区区政広報部秘書課
東京都荒川区荒川 2-2-3
電話 03-3802-3111 (代表) 内線 2161